

雪国の植物 ユキツバキ 14

湛水条件に対する耐性

石 沢 進

ユキツバキは、池の周辺、水流の脇など土壌水分の多い多湿条件のもとでもよく生育している。冬の間、積雪で地面にユキツバキの枝葉が圧着した状態でしばしば水浸しになるようなこともある。また、池や水たまりのなかに枝葉が浸かったままで、冬越することもある。そのような場合でもユキツバキの枝葉が枯れずに翌春には新しい枝葉をのばすこともある。他の木本よりも耐湿性の強さを示す一面と考えられる。

今回、南蒲原郡下田村笠堀ダムを訪れた際、ユキツバキの強い耐湿性を示す事例の一つが観察された。ダムは水位を上げるために、ある時期には満水となる。その時には、ダムの周辺では、近くに生えている植物と水面とが接するこ

とになる。その接点では植物の種類によっては湛水状態におかれることがある。当然のことながらその継続期間にもよるが、長期間の湛水によって植物体の根部が酸素不足で根ぐされを起こして枯死するケースが多い。笠堀ダムの湛水期間がどの程度であったかは、確認はできなかったが、減水時にユキツバキだけが満水になったとみられるダム周辺の裸地に生き残っている。満水時期は主に秋から春にかけての気温の低い時期とのものであるが、常緑のユキツバキが生き残り、他の樹種は生育していない。ユキツバキは他の樹種よりも湛水条件に耐え得る種として位置づけられそうである。

